

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・ 工事中の大型再開ビルが9月に完成するため、来街者数の増加、売上の増加が見込める。
		コンビニ（経営者）	・ 3か月予報のとおり暑くなれば売上は伸びる。また9月には店舗の改装を予定しており、売上に期待が持てる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当） 通信会社（営業担当）	・ 暑い梅雨のため、夏物の動きが良い。これから梅雨が早く上がり、高温になるという天気予報もあり、期待できる。 ・ ボーナスマ戦に入り、市場が活性化するとともに、新料金プランの反響が期待できる。
	変わらない	住宅販売会社（従業員）	・ 新しい住宅ローン（20年固定金利のフラット35）が今年10月から導入されるため、消費者の資金計画への関心も一層強くなり、客の動きも活発になる。
		百貨店（営業担当）	・ 直近のクリアランスでは前年実績が確保できず、この先も厳しい状況が続く。バーゲンが多すぎることも問題である。
		スーパー（店長）	・ 晴れの場のうなぎ、太巻きずし、焼きそばなどの単品の動きは活発であるが、祭りの食品は毎年縮小傾向にある。
		スーパー（店長）	・ 今年は暑い夏になりそうで、飲料水、アルコール、冷菓などの売上は期待できるが、逆に食欲不振などで客単価の低下が懸念される。
		スーパー（副店長）	・ 食品を中心に価格競争がますます激化する傾向にある。
		コンビニ（経営者）	・ 5～6月は主力のお弁当が前年比較で1割以上も悪く、この状態が今後も続く。
		衣料品専門店（経営者）	・ 客の話からは物価上昇や給与の目減りなどで、この先景気が良くなる雰囲気を感じられない。客に不安心理がある限り、活発な販売が期待できない。
		家電量販店（経営者）	・ 家電商品全体を通して、客の需要を盛り上げる新製品、新型商品が見当たらない。
		家電量販店（店長）	・ 新機軸の商品情報やトレンド商品など目新しいものがない。
		乗用車販売店（経営者）	・ ガソリン価格が高騰したため、燃費や小型車に対する客の関心が高い。また新規購入も台替も予算は緊縮気味で、購入時期も不透明なまま推移しており、全体として縮小傾向が見える。
		乗用車販売店（総務担当）	・ 今月発売した量販車は、比較的廉価な価格帯にもかかわらず客の動きが鈍い。8月には高価格帯の新型が投入されるが、价格的には大衆受けが難しい車種なので、販売総量で大きな期待は難しい。
		観光型旅館（経営者）	・ 夏休みを目前にしているが、予約の発生が遅いため非常に心配である。
		観光型旅館（スタッフ）	・ 7～9月の予約状況が前年を下回っている。10月以降は前年を上回っているが、まだ安心できない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 7月の宴会予約状況が伸び悩んでいるものの、8月はほぼ前年並みを見込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・ テレビ報道などで暗いニュースが多く、異常気象の影響もあって今年の旅行は期待できそうにない。
		タクシー運転手	・ 大きなイベントの予定もないが、週末はますますの人出を予想している。しかし、平日は相変わらず利用客が少なく、厳しい状況が続く。
その他レジャー施設（職員）	・ 土・日曜日の来客数は減少傾向にあり、客単価は依然として横ばいで推移している。景気の上向きを感じられない。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ バーゲンシーズンに入るが、これといった目新しい商品やヒット商品もなく、売上増は期待できない。	
	百貨店（売場主任）	・ 消費を支える30代、40代の客に明るい兆しがみえない。大半を占めている年収700万円未満の層の実質的な増税が、じわりと消費動向に影響を与えている。	
	百貨店（営業担当）	・ これからはサンダル、サマーバッグ、Tシャツなどのファッション商品が動く時期であるが、年金問題などから、客の買物行動は縮小気味に推移する。	
	スーパー（店長）	・ 今月の給与明細を見た客は、定率減税廃止の影響を大幅増税のように感じるため、財布のひもが固くなる。	
	スーパー（総務担当）	・ 6月分の給与から始まった住民税の増額により、消費に節約ムードが生まれ、小売には厳しい状態となる。	

		スーパー（営業担当）	・今後の懸念材料としては、ガソリン価格値上げによる食品の買い控え、バイオ燃料増産の影響による食品の値上げなどがあり、取り巻く環境は厳しくなっていく。
		一般レストラン（スタッフ）	・年金問題、参議院議員選挙の行方、円安傾向などの不安定要素が多いなか、ガソリンの値上げにより店の光熱費、物流費等の経費が増加している。また、各家庭においても同様に消費が増え、外食は回数を減らすか、1回の消費額を下げる傾向にあり、ここ数か月は客単価が微減している。
		テーマパーク（職員）	・能登半島地震の風評被害はもうしばらく続く。6月の来客数は前年比2割近く減少し、今後の予約状況からも回復の兆しが見られない。
		住宅販売会社（総務担当）	・定率減税の廃止などにより、所得の手取りベースが減収となり、消費意欲が後退する。
悪くなる		百貨店（営業担当）	・夏物商品が落ち込む要因はないが、3か月先の秋物ファッションでは新しいトレンドが出ておらず、苦戦が予想される。
		百貨店（売場担当）	・来客数が減少しており、特に夕方以降の時間帯でOLの減少傾向が顕著である。
		スーパー（店長）	・店で働く女性店員はほとんどが主婦であるが、6月の給与明細を見て、住民税の増額に驚いている。客の受け止め方も同じと想像され、先行きの消費に財布のひもは固くなる。
		住関連専門店（店長）	・開店以来、6月としては最低の売上となっており、今後新築や婚礼の客が更に少なくなるうえ、客の買い方も慎重になってくる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・現在の受注増は秋口または年末まで続く。それ以降も新しい受注が次々と入っている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・受注の先行きについて不透明感が強い。円安の関係で輸出関連に期待がかかるものの、9月末の在庫水準を厳しく管理しようとする動きが顕著で、受注面ではマイナスとなる。
		繊維工業（経営者）	・円安による原料高が今後心配である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・当社の引き合い状況等から見て大幅な変動はないと判断するが、金利の上昇幅によっては受注量がやや減少するおそれがある。
	精密機械器具製造業（経営者）	・部品加工メーカーの何社かはそれぞれ受注残を抱えており、徐々に仕事量は組立メーカーへと移っていく。しかし、以前に比べ規模を縮小している会社も多いため、全体の仕事量としてはやはり減少傾向が続く。	
やや悪くなる		食料品製造業（企画担当）	・主原料が一段と高くなる状況のなか、大豆、小麦、とうもろこしに関係する副原料の価格の上昇を始め、原油高による燃料費、物流費、石油関連商材の包装資材費など、高騰材料が軒並みである。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・引き合い件数も若干落ちてきている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・折込広告の出稿量が前年比較で伸び悩んでおり、今後増加する要素も見当たらない。
		司法書士	・企業関連では新規事業への融資の話が少ない。
		税理士（所長）	・現在、売上が徐々に伸びている会社でも、夏以降は厳しい見方をしていているところが多い。
悪くなる		建設業（経営者）	・公共工事の発注方法が指名競争入札から一般競争入札に変わったため、大型工事では全国の大業者が受注し、小型工事では施工能力に疑問がもたれる不適格業者の受注が目立つようになった。このあおりで、地元のまともな業者は受注機会が減少し、経営危機に陥っており、倒産の続発が懸念される。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・市内中心部に大型デパートが9月にリニューアルオープンするため、求人ニーズが周辺にも波及する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・長期派遣者の料金値上げに応じてくれる企業が徐々に多くなってきた。
		人材派遣会社（社員）	・製造業、特に機械関係からの求人は依然として好調であるが、事務系の求人はやや落ち着いた状態で推移している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の雇用形態で派遣、契約などの割合が高まっており、単純に求人数だけでは判断できない。
	職業安定所（職員）	・新規学卒求人受理説明会には前年に比べ13%増の事業所から出席があり、今後の求人申込に期待しているが、6月20日から始まった高卒求人の申込状況は昨年同時期と比べて出足が遅い。	

	職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向にあるが、依然として非正規型求人が多く見られ、正社員の有効求人倍率は低下している。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-